

年末
4

JR瀬戸大橋線2ヶタ減

四国旅客鉄道（JR四国）が6日発表した年末（12月25日）～1月5日）の鉄道利用状況によると、瀬戸大橋線が前年同期比11%減の28万9000人となるなど大きく落ち込んだ。前年に比べて年末年始の休曜日数が少ないことや高速道路の値下げが響いた。一線（予讃線、土讃線、高德線）の利用者数も10%減の14万5500人となっ

た。利用者のシフトが明確となった。JR四国は主要3線区（予讃線、土讃線、高德線）の利用者数も10%減の14万5500人となっ

高速道路は値下げによる利用が増えた。西日本高速道路四国支社によると、12月26日～1月5日までの四国の高速道路（高松、松山、高知、徳島自動車道）の利用台数は1日平均で12万6654台と前年を2.3%上

古所直の求
年末年始2.1%減
JAF4県まとめ
日本自動車連盟（JAF）四国支部は、年末年始（昨年12月26日～1月3日）の四国4県での故障車の救援状況をまとめ、救援件数は前年同期

で動けなくなった車が増加したものの、高速道路の値下げが12月26、27日、別の状況を見ると、高知は3.5%増の620件だった。同県西部で6件だ

四国医療をひろく

22.1.-7
>3

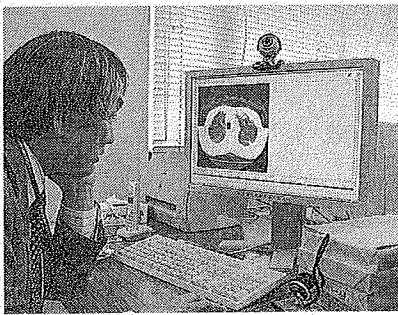
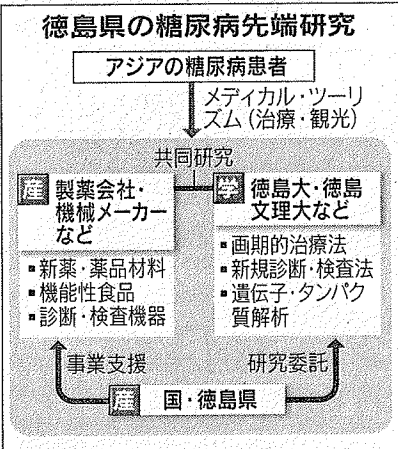
「徳島で今起きている」とは、いずれ日本全国で起る。糖尿病死亡率全国ワーストワンの徳島県で、糖尿病治療の先端研究を進める徳島大学糖尿病対策センター長の船木真理（44）はそう思っている。

四国の現状改善

船木を中心とした研究チームは2008年以降、自治体職員や企業の社員約1000人を対象に生活習慣の聞き取りや採血などの疫学調査を開始。調査は5年間、同じ人からデータをとり続ける。糖尿病にかかるといわれる前の人も対象になるため

治療・処方せん I T 化

情報共有、個人閲覧にらむ



「K-MIX」で患者のCT画像を見る徳島文理大の原量宏教授

卒中となった場合、救急病院、リハビリ用の病院、そして近所の掛かり付けの医師と治療の段階ごとに通う病院が変わる。医療情報を共有することで、治療が効果的に進む。

全国発信モデル

処方せん（情報技術）化を進める。医師は診察の際、どういう薬を飲んでいいのかを聞き取り処方せんを作成する。電子化できれば、飲みあわせが悪いかどうかも瞬時にわかる。

尿病を防ぎ、治療する方法はないか」と新しい治療法を模索している。徳島の糖尿病による死亡率をはじめ四国は糖尿病や心疾患による死亡率が全国でもトップクラスだ。心疾患では愛媛がトップとされており、香川、高知、徳島も死亡率が高い。四国の現状を改善するため、平電気鉄道（高松市）やシ

四国



敬称略